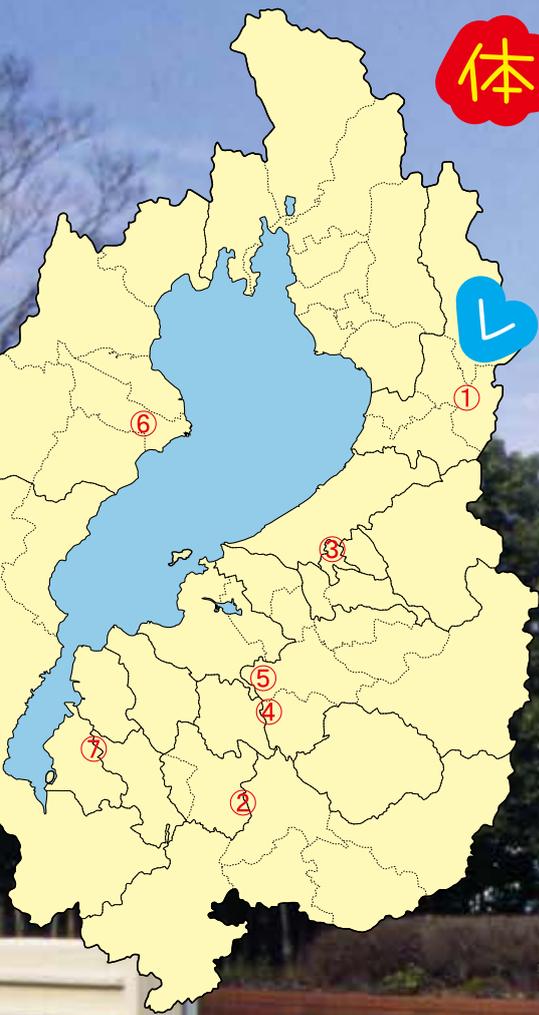


レト○・レト○の

体験フェスタ2012

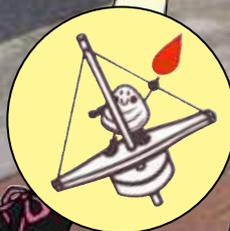
with

レト○・レト○の展覧会



今◎紹介する遺跡

- ① 清滝寺・能仁寺遺跡
- ② 岩瀬谷古墳群
- ③ 長畑遺跡
- ④ 蛭子田遺跡
- ⑤ 下羽田遺跡
- ⑥ 上御殿遺跡
- ⑦ 中沢遺跡



主催 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

共催 滋賀県教育委員会

A. 火起こし体験

レトロ・レトロの体験フェスタ 2012

火起こし選手権

2012年8月5日(日) 13:00 ~ 16:00

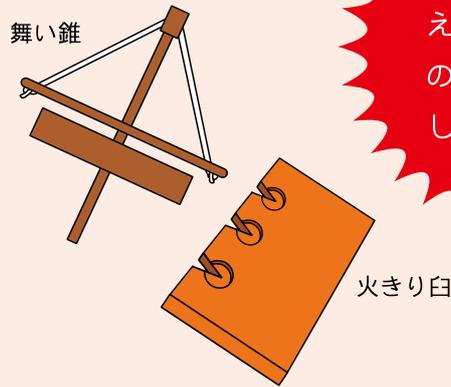
※要事前予約

詳しくはホームページをご覧ください。

まきり 舞い錐で火を起こしてみよう

☆火起こしの道具

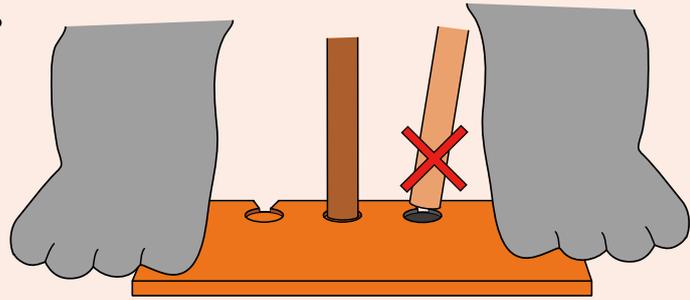
舞い錐と火きり臼うすを使います。
どちらか片方だけでは火が付けられません。



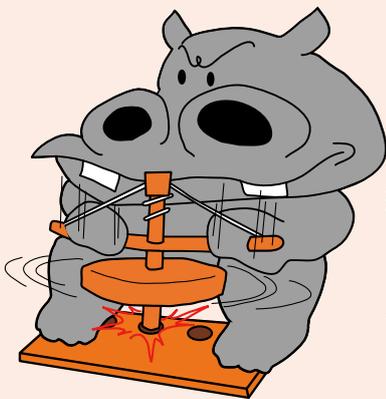
火を使います。燃えやすいもの、服のすそなどに注意しましょう。

☆火起こしの極意

火きり臼を両足でしっかりと踏んで固定します。
火きり臼の穴に舞い錐の先をはめます。



黒くこげている穴は一度火がついた穴なのでつかえません。



紐ひもの力を利用して舞い錐を回転させます。
火きり臼に穴をあけるつもりで何度も回転させましょう。
舞い錐の先が穴からはずれないように！



火きり臼が削れてできた木の粉から煙けむりが出てきたらもうひと頑張り。
ポウッと炎があがるのではなく、小さな火種ひだねができます。



「火」は、明かりを灯ともすため・お湯を沸わかしたり料理をするため・寒い季節に暖まるためなどに、昔から利用されてきました。

火を起こすには、いくつかの方法がありますが、「舞い錐式まきりしき」の火起こしは、木と木をこすり合わせて起まさつきる、摩擦による熱から火を起こす方法のひとつです。

まがたま B. 勾玉作り体験

レトロ・レトロの体験フェスタ 2012

勾玉作り体験

2012年7月22日(日) フォレオ大津一里山

2012年7月29日(日) イオンモール草津

各日 11:00/13:30/15:30 各回定員 30名

当日開店時間より受付

詳しくはホームページをご覧ください。

ろう石^{せき}で勾玉を作ってみよう

☆道具

ろう石・のこぎりカッター・棒やすり

紙やすり(2種類)・タッパー(水入れ)・ぞうきん



1. おおまかな形を作ります

ろう石に勾玉の形を描いてのこぎりカッターで
余計な部分を切り落とします。



ろう石をのこぎり
カッターで切る時は
手を切らないように
十分気をつけてくだ
さい。

2. 棒やすりで形をつくります

ろう石を水につけながら、棒やすりで角を取っていきます。

勾玉の先は折れないように
気をつけて削ろう。



作業はぞうきんの上でいいいにしよう。
落とすと割れてしまうよ。



ろう石は水につけると柔らかくなるよ。
水にぬらすと削ったあとの粉が飛び散らないよ。

3. 紙やすりで磨きます

目の粗い紙やすり→目の細かい紙やすりの順で細かい傷をとっていきます。

かならず紙やすりも勾玉も水に濡らしてから磨きましょう。



かじ C. 鍛冶体験

レトロ・レトロの体験フェスタ 2012
鍛冶体験

2012年7月25日(水)

2012年8月8日(水) 24日(金)

各日 10:00/14:00 各回定員20名

※要事前予約

詳しくはホームページをご覧ください。



必要な道具



七輪 / バケツ / コンクリートブロック / ライター / ドライヤー / 鉄床 / ハンマー / はさみ / 砥石 / 長いペンチ / 五寸釘 / 炭 / 革手袋 / 軍手 / ゴーグル / 新聞紙

火を使うときは十分に注意をして、周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。

1. 鍛冶炉を作る

七輪を炉の代わりに使って、炭を入れて火をつけます。



七輪

七輪の空気入れの前にコンクリートブロックの穴をあわせて置き、ドライヤーをはめて空気を送り込みます。風によって炭が激しく燃えて高熱になります。



フイゴ

昔はフイゴを使って炉に空気を送り込んでいました。

2. ハンマーで釘を打つ

※革手袋とゴーグルをつけて作業してください。

熱で赤くなった釘を鉄床に乗せてハンマーで叩きます。

10回ほど叩いては火の中に入れてをくり返します。



※ペンチで釘を持つときはしっかりとはさみましょう。はさみ方がゆるいと釘が飛んで怪我のもとになります。



少しずつナイフの形になるように叩いていきます。



ナイフの刃になる側をたくさん打って薄く仕上げます。

釘はとても熱くなっています。やけどやけがをしないように、十分に気をつけましょう。

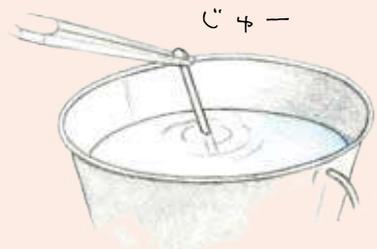


3. 冷やして刃を研ぐ

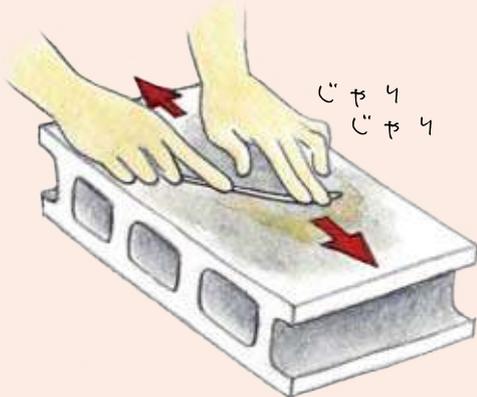
ナイフの形ができたなら、赤く熱した後で一気に水につけて冷やします。こうすることで固くなります（焼入れといいます）。

次に、コンクリートブロックで刃を研ぎます。

そのとき、砥石とナイフの角度を保つように気をつけます。



鉄の地金が出てきたら、砥石を使って刃を鋭くします。



※研ぐときに出る泥のようなものは、捨てずに水を足しながら研ぎます。



人やいきものにナイフを向けたり、振り回してはいけません。

人前でむやみにナイフを見せてはいけません。



鉄は、現在では建物や乗物そして生活の道具などになくはならないものとなっています。世界で最初に鉄の道具を使ったのは、今から5000年前のことで、宇宙から来た隕鉄を利用した可能性も言われています。

日本で本格的に鉄を作りだしたのは、今から約1600年前の古墳時代と考えられています。古代の近江は、日本有数の鉄生産地でした。近江で作られた鉄は、都の建設などに使われました。

せきぞく D. 石鏃作り体験

レトロ・レトロの体験フェスタ 2012

石鏃作り体験

2012年8月3日(金)17日(金)22日(水)

各日 10:00/14:00 定員各回 20名

※要事前予約

詳しくはホームページをご覧ください。

せきぞく 石鏃を作ってみよう

必要な道具



原石(サヌカイト) / 五寸釘 / ゴーグル / 人工皮(分厚い布) / 革手袋
竹(矢の柄) / 木の枝(弓) / たこ糸(弓の弦) / 文房具(ハサミ、カッター)

石鏃作りは破片が飛び散ったりして危険です。必ず安全な服装で行いましょう。

げんせき 1. 原石を割ります

原石を割って薄い破片(剥片)をつくります。

剥片に五寸釘を押し当てるようにして、形を三角形に整えます。



昔の人はシカの角を使って石を割っていました。



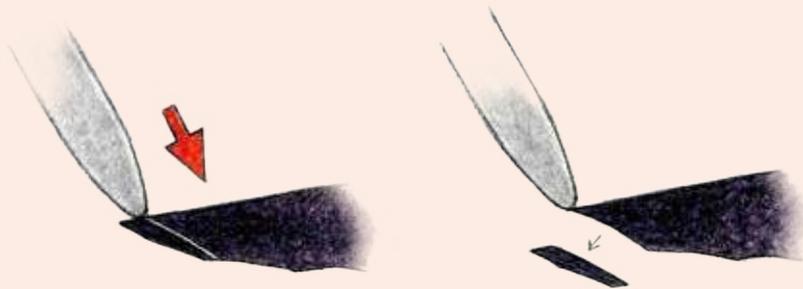
目に石の破片が入らないよう、必ずゴーグルをつけよう!!



ぐらつかないように剥片のふちを布におしあてるとやりやすいよ。

2. 刃をつける

剥片のふちに釘の先を押し当てて、薄く押しはがすようにして刃をつけます。



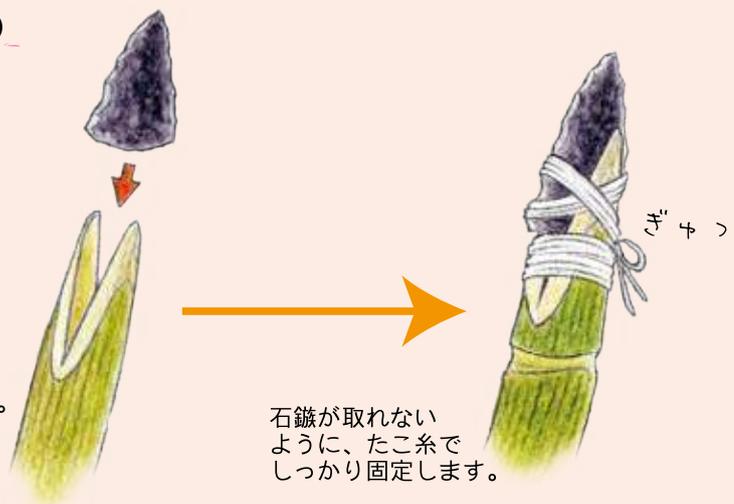
少しずつ割るとうまくいきます。



完成!

3. 竹につけて矢にする

竹の先にみぞをつけ、石鏃をつけます。

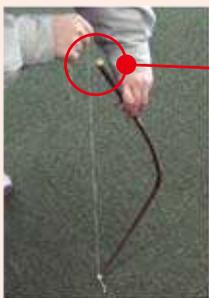


接着剤を使うとしっかり固定されます。昔の人は天然のアスファルトを接着剤として利用していました。

石鏃が取れないように、たこ糸でしっかり固定します。

3. 弓をつくる

木の枝をしならせながら、枝の両はしにたこ糸をピンと張って、しっかりと結びつけます。



ねんのためにゴーグルをつけて作業してね!

石器は人に向けてるとたいへん危険です。絶対人に向けてはいけません。

完成!

石鏃とは石でつくった矢じりのことで、矢の先にとりつけます。縄文時代の始まりとともに弓が使われるようになり、シカやイノシシのように大型で動きの速い動物や、空を飛ぶ鳥などをつかまえることができるようになりました。



そのもの E. 染物体験

レトロ・レトロの体験フェスタ 2012

染物体験

2012年7月27日(金) 8月10日(金)

各日 10:00/14:00 定員各回 20名

※要事前予約

詳しくはホームページをご覧ください。

きぬ 絹布をススキで染めてみよう

その えき 1. 染液づくり

生のススキをハサミなどでこまかくきざみ、なべに水と一緒にに入れて火にかけます。

ふっとう
沸騰したら弱火にして20分くらい煮ます。



液をさらしかガーゼでこします。
これが染液です。



熱いお湯を使います。やけどをしないように、鍋や湯気にも気をつけましょう。

2. 染める

染液を80度くらいにあたため、染める布を入れます。そのまま20分間、さいばしでゆっくりかきまぜます。



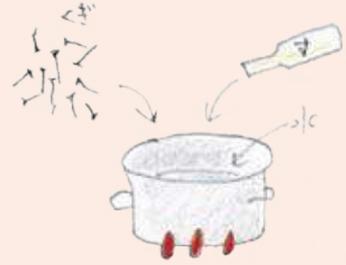
まぜないで置いておくと色ムラの原因になります。

ばい せん 3. 媒染 (詳しくは右のページを見てね)

60～80度くらいにあたためた媒染液に約20分間、浸しながらかき混ぜます。染液が同じでも、媒染剤が異なると仕上がりの色が変わります。



ムラなくかき混ぜると仕上がりがきれいです。

	つばき 椿灰媒染	鉄媒染
媒染剤の作り方	伐採された椿の木を灰になるまで燃やします。灰が冷めたら缶などにいれて保管します。 	古釘・酢・水を同じ重さずつステンレスの鍋で煮ます。液の量が半分になるまで煮つめます。 
媒染液の作り方	椿灰を少量、さらし(ガーゼ)にくるみ、お湯の中でゆすって灰の成分を溶かし込みます。	染めるものの重量の2%くらいをお湯の中に入れてよく混ぜます。 ※均一にしないとムラになります。
媒染すると…	黄色く発色します。 	緑がかった灰色になります。 

4. 水で洗って陰干し

水でよくすすいでかわかします。



染めた布は色落ちしやすいので、かならず水で洗ってください。



完成!



最も古い染め物の方法は、岩石・土・草木の葉や花など、色が出るものを直接布にこすりつける方法で、縄文時代から行われていたようです。実際に染めた布は、佐賀県吉野ヶ里遺跡から弥生時代中期(約2000年前)以降のものがみつかっています。奈良時代になると、茜草・あかねぐさ紫草・むらさきぐさ紅花・べにばな刈安など、当時使われていたと思われる染め物の材料が記録に残されています。



本堂基壇の南側からみつかった2つの区画

紀元前15000年	紀元前300年	紀元後300年	700年	800年	1200年	1600年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世 近世

きよたきでら のうにんじ ① 清滝寺・能仁寺遺跡

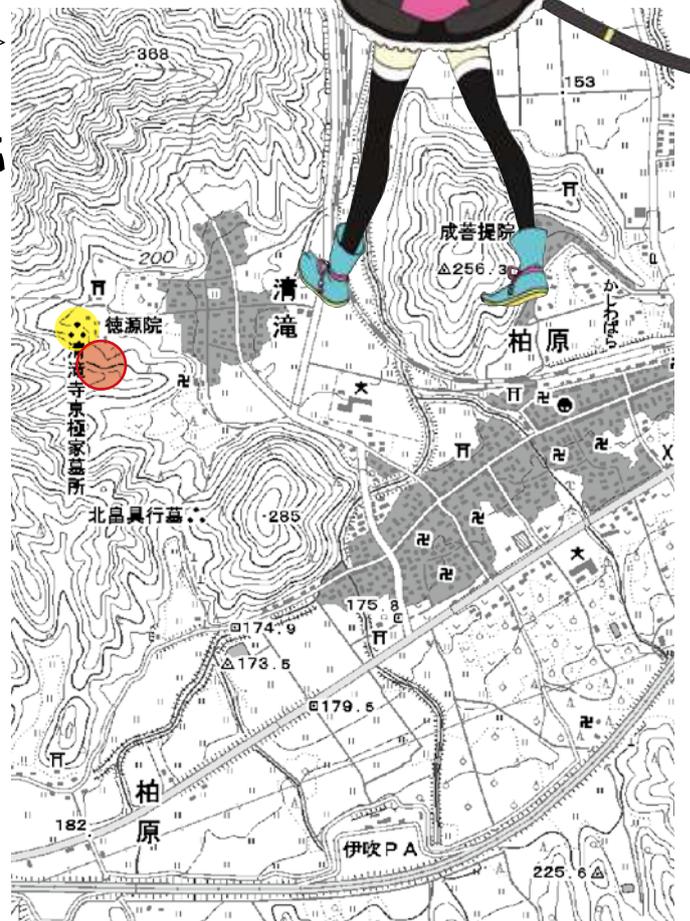
米原市清滝

平成22年度から引き続いて、砂防工事に伴い
きょうごく京極家第7代高詮たかのりの墓所である能仁寺跡を調査
 しました。今回は、ほんどう本堂跡の南側に石組み溝で囲
 まれた方形区画が確認されたほか、その下から庭
ほうけい園の一部もみつかりました。

きだん基壇：建物の基礎になる、石や土で築いた段

★この遺跡の近くには…

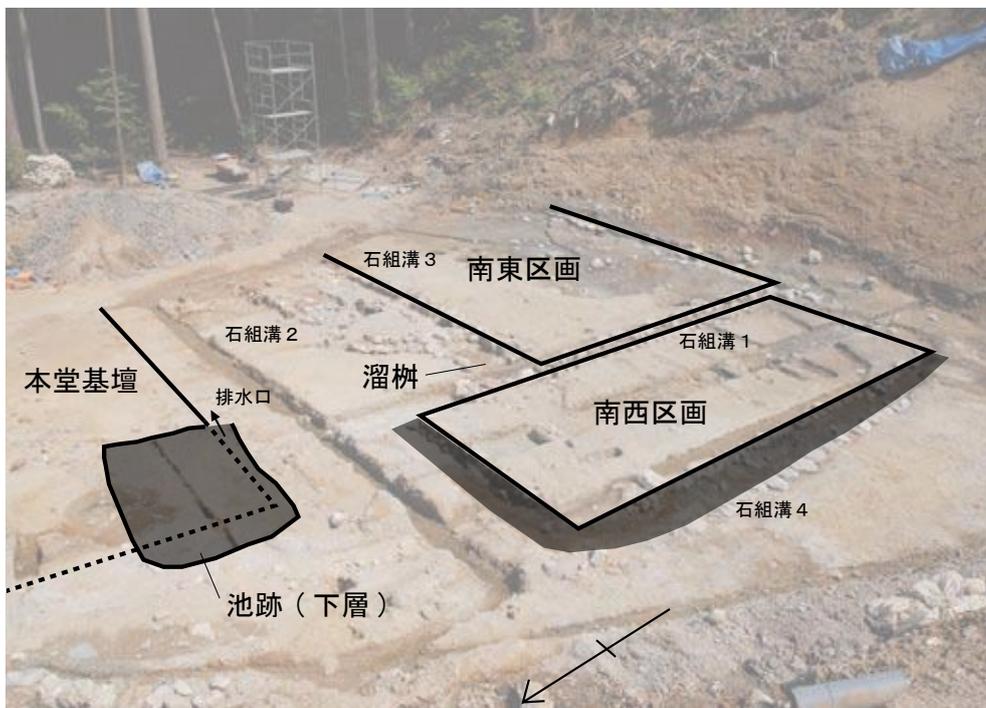
し史跡清滝寺京極家墓所は38基の石塔せきとうが立ち
 並んでおり、見どころ満載です。



調査地は米原市清滝の能仁寺谷と呼ばれる場所で、史跡清滝寺京極家墓所に隣接します。一昨年度の調査では、室町時代の本堂基壇・山門跡・石垣が付いた参道などが確認されたことから、いつたえのとおり、京極家第7代高詮の墓所である能仁寺跡でほぼ間違いないと考えられました。

今回は本堂基壇※南側に調査区を拡大したところ、

石組み溝は東西に並ぶ2ヶ所の方形区画を囲んでいたことがわかりました。これらは本堂基壇と方向が一致することから、本堂とともに能仁寺を構成する建物の敷地と推定されます。今回の調査で能仁寺の全体がほぼ明らかになりましたが、高詮の墓跡は確認できませんでした。



本堂基壇南西部の下層では3～5cmほどの川原石が撒き敷かれて、庭園の池跡とみられます。池の大きさは東西約3.7m、南北約2.5mで、岸には人の頭くらいの大きさの石を並べて護岸していたようですが、護岸石はほとんど失われています。池の南東端には両側に自然石を配した排水口が残り、そこから水が流れる溝の底には自然石をおいてわずかな段差を設けて、水流にうねりを生じさせる工夫が施されています。

ほかにも川原石を敷き並べている場所が見つかり、池のある庭が広がっていたようです。遺構の切り合いから、本堂基壇によりも先に庭が作られたとわかり、能仁寺より先に庭を伴う風雅な施設が建てられていたようです。



みつかった庭園の池跡

調査員の思い出



庭跡はきれいに残ってなかったけど、石を使った区画で寺のお堂を整然と並べたようにすに圧倒されました。



池跡に作られた排水口



南向きの丘陵斜面に古墳が作られていました

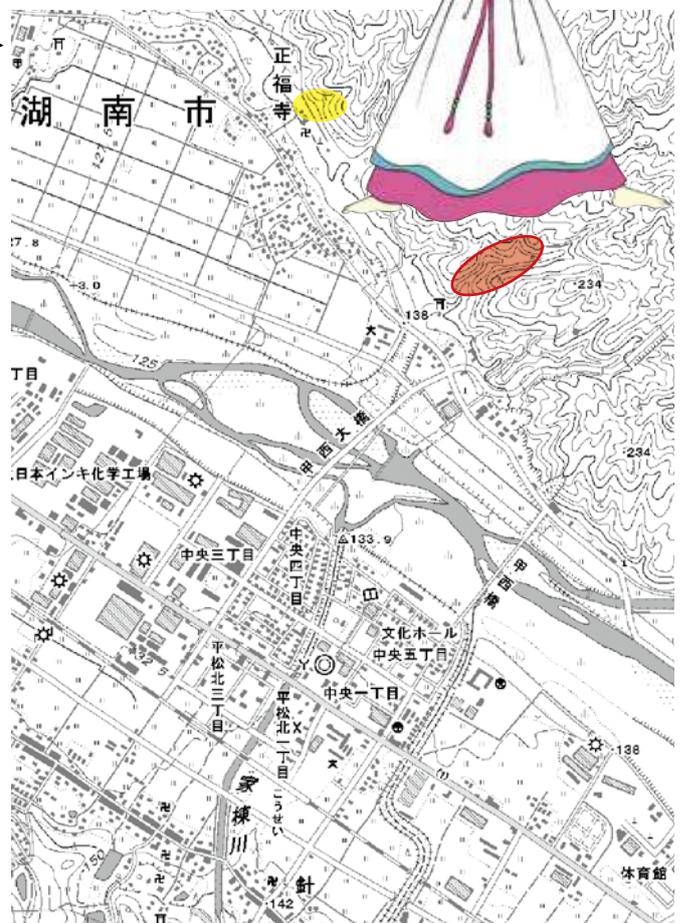
紀元前15000年	紀元前300年	紀元後300年	700年	800年	1200年	1600年	
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世

いわけだに ②岩瀬谷古墳群

しょうふくじ
湖南省 正福寺

湖南省正福寺の岩瀬谷古墳群で、砂防工事に伴う発掘調査をおこないました。調査の結果、古墳時代後期（6世紀後葉～末葉頃）の古墳5基がみつかりました。横穴式石室※が良好な状態で発見され、そのうちの一基からは銀象嵌をほどこした刀の鐔1点が出土しました。また、古墳群に隣接する大砂川の川底で、矢穴※を残す岩が発見され、このあたりが中世の石切り場であったことがわかりました。

横穴式石室：横方向に開口する石組みの墓室
矢穴：石を割るために彫りこまれた穴



D1号墳は直径14～15m程度の円墳^{えんぶん}です。もともとは土饅頭^{どまんじゅう}のように土が盛られていましたが、長い年月のうちに流れだし、石室の天井部^{てんじょうぶ}が露出^{ろしゅつ}していました。

みつかった古墳の内部には、石を積み上げた横穴式石室が設置されていました。写真は入口から奥の壁を見たところです。たくみに大小の石を組み合わせて石室を作っています。



みつかった古墳の全景 (D1号墳)



みつかった古墳の石室 (D1号墳)



矢穴石



古墳から出土した銀象嵌鐔

D1号墳の石室床面から銀象嵌鐔1点が出土しました。鐔とは、刀の柄と刀の身にはさんで、柄を握る手を防御するための部品です。錆^{さび}を落としたところ、鐔の側面^{そくめん}で銀象嵌を確認しました。象嵌とは銅・鉄などの金属に紋様を彫りこみ、そこに別の金属（金銀など）をはめ込む装飾技法^{もんよう}です。今回出土した鐔は、側面に2条の直線とその間に勾玉^{まがたま}のような紋様を銀象嵌であしらっていました。

調査員の思い出

調査地には細い山道しかなく、途中には川を渡る箇所もあったので事故が心配でしたが、無事に調査を終えることができました。調査地は埋戻していませんので、石室や矢穴石は見学可能です。とっても静かない場所なので、ハイキングにもってこいです（長靴は忘れなく）。



調査前には予想もしなかったのが矢穴石です。矢穴石とは、石を一定の大きさに切り出すために石に彫りこまれた穴を残した石のこと。石の切り出し作業がおこなわれた証拠です。今回見つかった矢穴石は、鎌倉時代や室町時代などの中世にさかのぼる各種の石造物の製作に用いられたと考えられます。

★この遺跡の近くには…

近くの正福寺塚穴古墳は県下で屈指^{くっし}の巨石古墳^{きよせき}です。



掘立柱建物や竪穴住居が集中して見つかりました。

紀元前15000年	紀元前300年	紀元後300年	700年	800年	1200年	1600年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世 近世

ながばたけ ③長畑遺跡

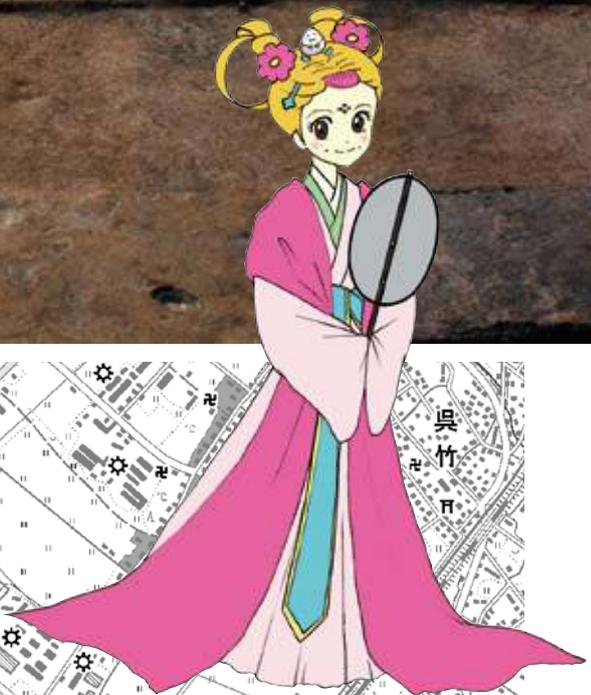
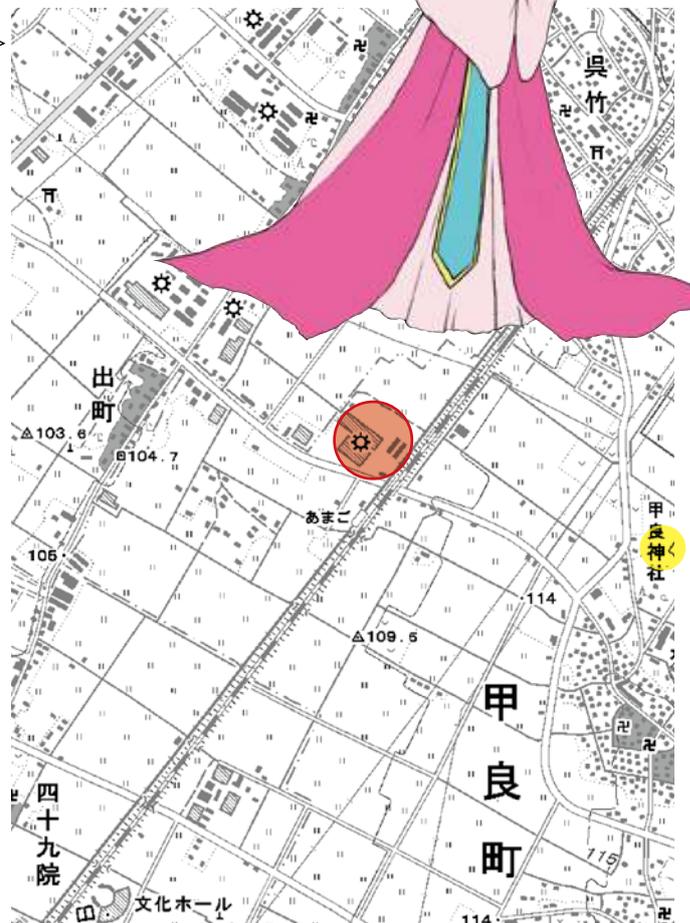
犬上郡甲良町尼子

長畑遺跡は、犬上川が形成した扇状地上にあります。昭和58年に工場を建設する時に発見されました。その時の調査では奈良時代から平安時代にかけての大型掘立柱建物※などがたくさん見つかり、この地域の豪族ごうぞくに関係すると推定される重要な遺跡であると判明しました。今回は、その工場の増築に伴う調査です。

掘立柱建物：地面に穴を掘り、その中に柱を立てた建物

★この遺跡の近くには…

近くの甲良神社では、重要文化財の「権殿」ごんでんを見学することができます。



今回の調査は、昭和58年調査地の南東側で行い、掘立柱建物や^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居・溝などの遺構がみつかりました。この遺跡の特徴は、遺構の残りがとても良いことです。通常は、のちの時代に田んぼなどを作るときに、もともとの地面を削って水平にするので、遺構の残りがあまり良くないことが多いです。

掘立柱建物は5棟がみつかりました。いずれも昭和58年の調査で見つかったものと同様に、大型の柱穴を持つ建物です。5棟のうちで最も床面が広いものは、縦6.4m、横4.5mあり、穴は一番深いもので約60cmありました。大人の男性が腹這いで腕を伸ばして掘るとこのくらいの深さになりますから、当時の生活面があまり削られていないと考えることができそうです。



掘立柱建物

竪穴住居は2棟みつかりました。どちらも平面形は隅丸方形で、1辺は3～4mあります。そのうちの1棟は深さが約50cmあり、食物を煮炊きするためのカマドが東側の壁際に取り付けられていました。煙を外へ出すトンネル状の^{えんどう}煙道までもとてもよく残っていました。

調査区の南東壁際では大きな穴（^{どこう}土坑）がみつかりました。調査区外に広がるため、全体の規模はわかりませんが、最も深い所で深さ約90cmありました。埋まった土の中からは、たくさんの石と一緒に須恵器の^{すえき}坏や土師器の^{つぎ はじき なべ}鍋などの土器が出土しました。

今回みつかった建物などは、遺物から、奈良時代後半から平安時代前半にかけて（8世紀後半～9世紀前半）のもので、遺跡の主要^{ほんい}範囲が南東側に広がることもわかりました。



竪穴住居

調査員の思い出

見つかった遺構や遺物はそれほど多かったわけではないですが、煙道が残った竪穴住居だとか、これまで私が調査した中で一番残りのいい遺跡でした。それから、工場の敷地内での調査についても、私は初めてで珍しく、お昼休みに見学に来られた皆さんたちと話すこともしばしばありました。



土坑

↓雪野山古墳



蛭子田遺跡は雪野山古墳のすぐ近くです

紀元前15000年	紀元前300年	紀元後300年	700年	800年	1200年	1600年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世 近世

えびすだ
④蛭子田遺跡

東近江市木村町

名神高速道路のインターチェンジ建設工事に伴い、発掘調査を行いました。今回の調査では古墳時代の川跡・^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居※・^{えんぶん}掘立柱建物・円墳、奈良～平安時代の掘立柱建物などがみつかります。特に古墳時代の川跡からはたくさんの土器や木製品が出土しています。

竪穴住居：地面を掘くぼめて床とし、そこに屋根をかけた半地下式建物

★この遺跡の近くには…

近くの木村古墳群は「あかね古墳公園」として復元されています。



古墳時代の川跡からは、多くの土器とともにさまざまな種類の木製品がみつかっています。特に珍しいものに木製壺^{もくせいぼ}鐙^{あぶみ}があります。鐙とは馬に乗るときに足先を掛ける馬具の一つです。古代の木製壺鐙は、全国でもわずか20数例が知られるだけで、滋賀県内ではこれまでに東近江市（旧能登川町）の斗西遺跡^{とのし}で出土した1点しかみつかりませんでした。今回の調査では、保存状態の良かった下の写真の鐙をはじめ、合計で3点が出土しました。これらはいっしょに出土した土器の年代から、5世紀後半頃のものと考えられ、国内でも最古級の事例となります。



川跡からみつかった木製壺鐙



伐採の痕跡がある大木



鉄斧

川跡からは切り倒したときの切り口を残す木も多く出土しています。木製品を作るために原木を製材していたものと考えられます。木々を伐採^{ばっさい}したことに関連する遺物に、鉄斧^{てつぶ}があります（今回の調査で出土した鉄斧は、枝払いなどに使われていたと考えられます）。蛭子田遺跡の周辺には、林業に従事していた人々が生活していたことが明らかになりました。

調査員の思い出

すごい勢いで調査だったので、現場の雰囲気全体が妙なハイテンションになっていました。暑い日も寒い日もスコップを振るってくれた、調査に参加していただいた皆さんに感謝です。



木製品の出土状況



平安時代の掘立柱建物

紀元前15000年	紀元前300年	紀元後300年	700年	800年	1200年	1600年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世 近世

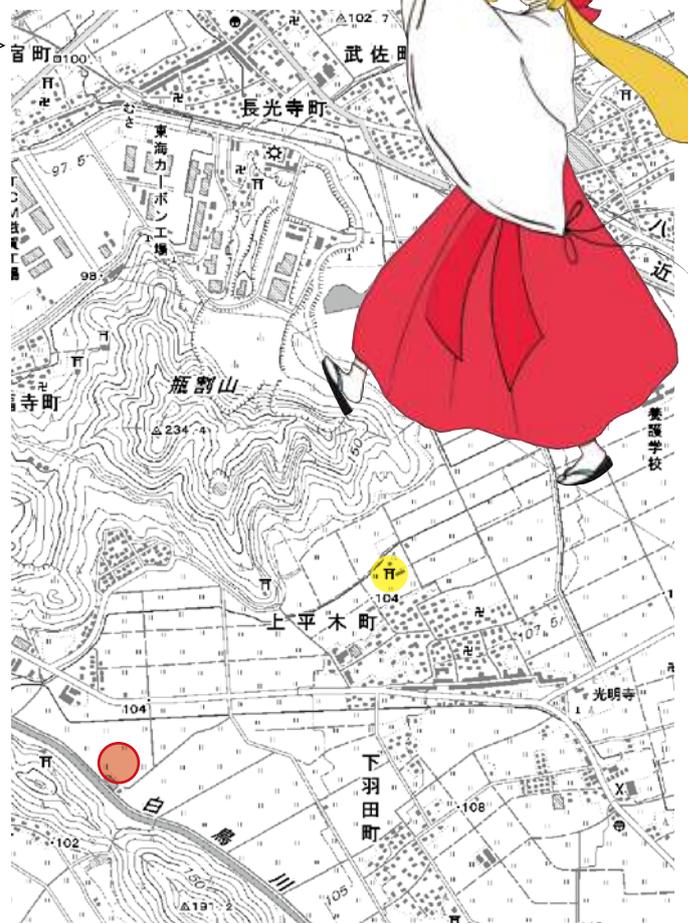
しもはねだ ⑤下羽田遺跡

東近江市上平木町

平成22年度から調整池を掘るための事前調査をしています。下羽田遺跡は雪野山から延びる丘陵と^{かめわりやま}瓶割山に囲まれ、^{しらとりがわ}白鳥川の東側に位置しています。今回の調査では、縄文時代の終わり頃の住居や墓、古墳時代の住居、平安時代の建物跡や石を敷いて水辺でまつりを行った跡などがみついています。平安時代の建物には、^{こくもつ}穀物などを納めた倉庫などがあります。

★この遺跡の近くには…

上平木町の^{みさわ}御澤神社は、聖徳太子の伝説と水にまつわる信仰で有名です。

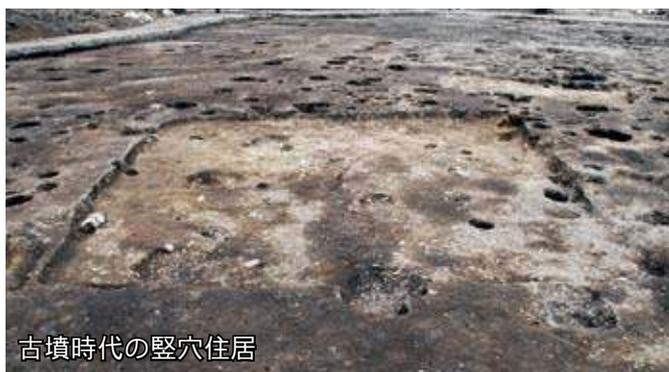




縄文時代の土器棺墓

縄文時代の終わり頃には、大人は地面に直接穴を掘って埋められ、小さな子供は、日常使われていた大きな土器に葬られるようになります。集落の人々は幼くして亡くなった子供の死を大変悲しみ、直接土に埋めることはしなかったのでしょうか。また、大人も一度埋められた後、骨になってから大きな土器に埋め直されたりすることもあり、亡くなった人々を忘れないように大切にしていたことがわかります。

古墳時代には、周囲の山に古墳と呼ばれる土饅頭のような墓が造られ、家は下羽田遺跡周辺で建てられていました。この頃の家は地面を掘りくぼめた竪穴住居と呼ばれる家で、植物などを用いて屋根を葺いたと考えられています。



古墳時代の竪穴住居

調査員の思い出

縄文時代から平安時代までの住居や建物跡が同じ場所で重なっていて、大変な発掘で疲れました。



※くわしく知りたい人は係の人に聞いてね

平安時代には、昔の川の岸辺に建物が建てられるようになります。この頃の建物には、家のほかに食料などを保管した立派な倉庫もありました。これらの建物は規則的に配置され、整然とした空間を形成していました。また、川の前では火を焚き、水に対するまつりを行っていたようです。その後、水に対するまつりは本格化して2～3cm程度の大きさの石を何万個も敷き詰めて、日常で使った土器などを細かく割り、そこで火を焚くようになります。石を敷く行為は現在の神社などでもみられます。下羽田遺跡の石敷遺構が同じような意味をもつかどうかはわかりませんが、広い意味で水の神をまつる神聖な場所であったと考えられます。しかし、この場所は武士が台頭する鎌倉時代以降には田畑となったようです。



平安時代の石敷遺構



道状の石敷遺構



豊かな田園地帯に遺跡が広がります

紀元前1500年	紀元前300年	紀元後300年	700年	800年	1200年	1600年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世 近世

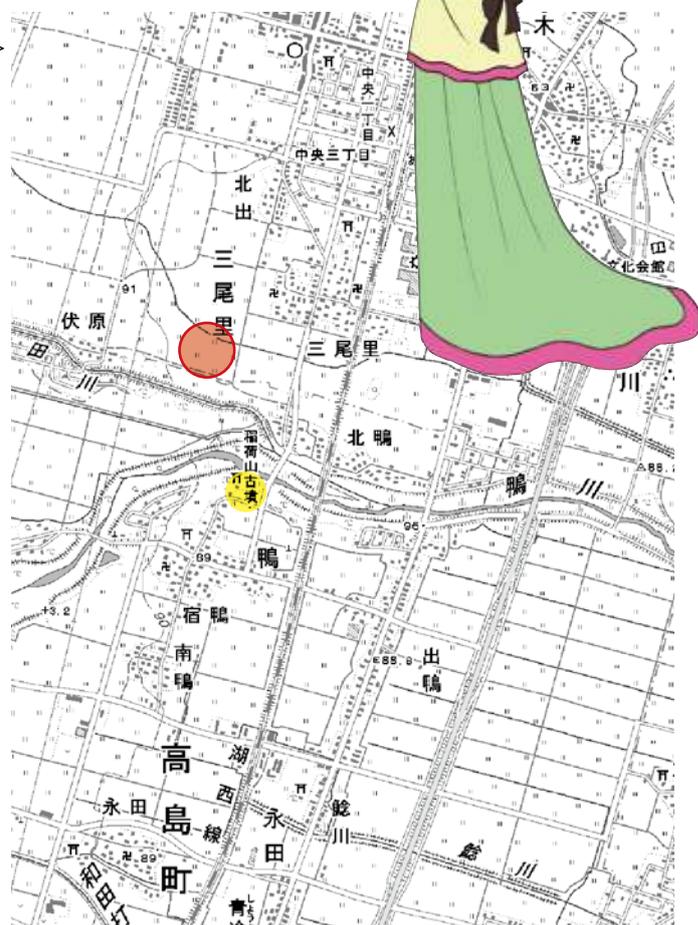
かみごてん ⑥上御殿遺跡

高島市安曇川町三尾里

河川改修工事に伴って、平成20年度から発掘調査を実施しています。今回の調査では、古墳時代の竪穴住居や木棺墓、奈良時代後半～平安時代初頭の倉庫群、平安時代後期の有力者の屋敷とみられる大型掘立柱建物などが見つかりました。特に、木棺墓からは美しいアクセサリーが出土しました。

★この遺跡の近くには…

近くの県史跡鴨稻荷山古墳の石棺は、奈良県と大阪府の境にある二上山から運ばれました。





木棺墓

古墳時代前期～中期に造られた木棺墓は、墳丘や周溝といった区画施設を持たないお墓で、墓坑に木棺を納めたものです。長方形の墓坑は、長さ2.95 m、幅1.02 mあり、35 cmの深さで残っていました。木棺は残っていませんでしたが痕跡を確認することができ、長さは不明なものの、幅（内法）63 cm、棺材（長側板）の厚さが5 cmであることがわかりました。

古墳時代の竪穴住居は、いずれも平面形が方形のもので、前期（5棟）と後期（2棟）の7棟がみつかりました。前期のうち1棟は一辺約8 mの規模があり、一辺5～7 mの他の住居に比べると大きな住居です。盟主クラスとみられるこの住居からは、土器のほか、鎌とみられる鉄器、糸をつむぐ道具である石製紡錘車ぼうすいしゃが出土しています。

調査員の思い出

木棺墓は、予想外の発見でした。ガラス製小玉はとっても小さく、写真を撮ったり図面を作ったりするまで無くならないかと、とっても心配でした。



墓坑の北東端（写真上側の端）から約1 m内側の底面近くで、硬玉製勾玉こうぎょくせいまがたま1点とガラス製小玉82点がまとまってみつかりました。出土した状況から一連の首飾りなどを身に着けた状態で埋葬されたと考えられます。勾玉は、縦の長さが2.5 cmあります。硬玉はヒスイとも呼ばれ、新潟県糸魚川市いといがわなど限られた場所でしか採れない貴重なものです。



出土した玉類



竪穴住居



竪穴住居の炉跡が見えてきました



川跡は大きく蛇行しながら流れていました

紀元前15000年	紀元前300年	紀元後300年	700年	800年	1200年	1600年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世 近世

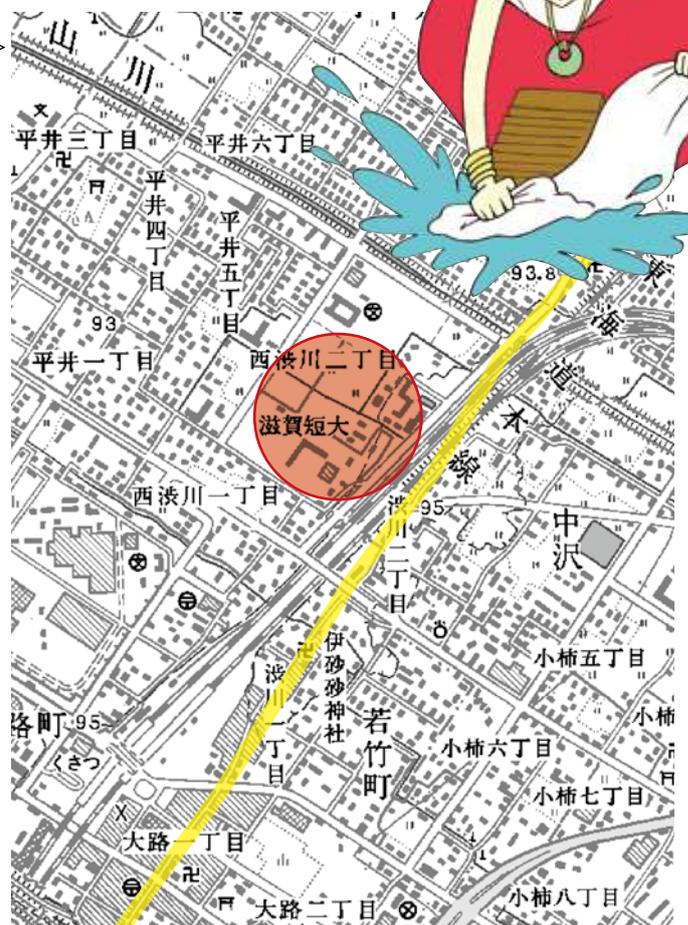
なかがわ ⑦中沢遺跡

草津市西渋川二丁目

住宅地を造成するために発掘調査を実施しました。中沢遺跡は、葉山川が形成した扇状地の端部にあたる、草津市西渋川から栗東市中沢にかけて広がります。弥生時代から古墳時代にかけての集落が存在していたとされ、今回の調査では、集落のほとりを流れる川跡がみつきり、たくさんの遺物が出土しました。

★この遺跡の近くには…

草津は東海道と中山道が分岐する街道の町です。本陣が当時のまま残っています。



中山道 ↑



今回の調査でみつかった遺構は、溝や川などで、これらからは古墳時代前期の土器が出てきたので、その頃に使われ、埋まったものだとわかりました。建物跡はみつかりませんが、調査地一帯は当時の集落の一部と考えることができそうです。

何本も見つかった溝は、どれも曲がりくねっていて、中には一度掘り直されているものもあります。また、川跡は4.5～5.0 mの幅がありますが、調査区の南端では、3本の川筋が重なり合っているなど、短期間で流れが複雑に変化したことを物語っています。



梯子が出土した様子



溝跡

川跡からは、たくさんの土器（土師器）や木製品がみつかりました。木製品には、高床の建物に登るための梯子や、船形の容器である槽など、たくさんの製品が含まれていました。

奈良時代以降、この土地はしばらく使われていませんでしたが、室町時代（15～16世紀）になって再び利用されるようになります。直径6～7 m、深さ2.4 mの大きな穴は、深くなるほど狭まっていきます。田んぼに入れる水を溜めておく穴ではないでしょうか。また、掘立柱建物とその横で見つかった区画溝は、当時の家の跡と考えられます。



川跡から出土した土器

調査員の思い出



一番てこずったのは川の掘削。川に埋まった土と地面の土との区別が付きにくかったり、たくさんの土器や木製品がみつかったり。沖積地の川の調査の怖さを思い知りました。



中世の建物跡



あさひ よこやまじょう 朝日遺跡・横山城遺跡

米原市朝日・長浜市石田町

県道の建設工事に伴う発掘調査。朝日遺跡は、これまで、知られていなかった新発見の遺跡です。

例年にない豪雪に見舞われた平成23年度。調査は難渋を極めました。中世から近世にかけての墓地や屋敷跡があったようです。



かねがもりにし 金森西遺跡

守山市金森町

県道の拡幅工事に伴う発掘調査。

今回の調査地点は、遺跡の南端付近にあたります。古墳時代の集落の南に流れていた川跡がみつき、土器などがみつかりました。



おか 岡遺跡

栗東市下戸山

県道の拡幅工事に伴う発掘調査。

岡遺跡は古代の栗本（栗太）郡衙跡の遺跡として有名です。今回の調査は、推定栗本郡衙からはやや離れた地点での調査となりましたが、奈良時代から平安時代の建物跡などがみつかりました。



しんどうまえ 新堂前遺跡

草津市新堂町

県道の拡幅工事に伴う発掘調査。

調査を実施した面積は狭いものでしたが、鎌倉時代の井戸跡や屋敷を区画したと考えられる溝跡などがみつかりました。付近には立派な屋敷があったようです。



しもなが よこえ 下長・横江遺跡

守山市大門町・三宅町

県道の建設工事に伴う発掘調査。

扇状地の端部から低湿地に位置する遺跡群を串刺しにするように調査を実施しました。古墳時代から中世にかけての川の跡や、人工的に掘られた水路の跡が多く見つかりました。



かみさわ 上沢遺跡

東近江市上平木町

調査を実施した面積は狭いものでしたが、古代から中世の小穴や土坑が見つかりました。付近に当時の集落があったと考えられます。



ちくぶしま 名勝史跡 竹生島

長浜市早崎町

つくぶすま 都久夫須磨神社拝殿はいでんの保存修理に伴う調査。

平成23年度は、測量調査そくりょうを実施しました。拝殿床下の急斜面での測量は、頭上注意・足下注意の危険な作業でした。



東近江市 狛氏館遺跡



甲賀市 沢尻遺跡

その他の発掘調査

- ・ せきのつじょう 関津城遺跡 (大津市)
- ・ つかいわ 塚岩古墳群 (野洲市)
- ・ さわじり 沢尻遺跡 (甲賀市)
- ・ あいだにてらまえ 相谷寺前遺跡 (東近江市)
- ・ こましやかた 狛氏館遺跡 (東近江市)
- ・ つつみがたに 堤ヶ谷遺跡 (竜王町)

規模の小さな調査が多かったですが、滋賀県の歴史を示す貴重な成果を得ることができました。

興味がわいてきたら…

遺跡見学に行こう！

第1ステップ 現地説明会へ行こう

文化財保護協会では、発掘調査の途中で、現地説明会を実施して、遺跡の本当の姿を見ていただける機会をもつけるようにしています。

本物の遺跡を前に、わかりやすく説明するので、遺跡入門に最適です。現地説明会の開催は、新聞やテレビのニュースでお知らせするほか、当協会のホームページでもお知らせしています。皆さんもぜひ、参加してください。



現地説明会の様子（晴れの日も少々の雨の日も…）

第2ステップ 遺跡公園へ行こう

遺跡の中には、遺跡公園として保存・整備されている場合もあります。昔の姿を想像できるように住居などを復元しているほか、見学しやすいように通路を設けたり、説明版を設置したりしています。

きっと、あなたの家の近くにも遺跡公園があると思います。ハイキングやサイクリングの途中に寄っても楽しいでしょう。



東近江市木村古墳群（あかね古墳公園）
（約1500年前の湖東平野を支配していた王の墓です）



大津市史跡近江大津宮錦織遺跡
（天智天皇が1300年以上前に大和から遷都した大津宮跡にあたります。明治時代に建てられた『志賀宮址碑』の隣から、巨大な柱跡がみつかりました）

第3ステップ 山の中へ 未知の遺跡を求めて！！

現地見学会や遺跡公園に慣れば、いよいよ本格的な遺跡探検に出かけましょう！

古墳や城跡は、整備や復元がなされていなくても、少し慣れば、遺跡であることが理解できるので、遺跡探検に最適です。はじめは、慣れた人と一緒に出かけて、見所や遺跡見学のルールを教えてくださいと良いでしょう。また、当協会や各教育委員会主催の「遺跡巡り」もあります。気軽に、参加してみてください。

本格的な遺跡見学になれば、山の中を歩いたり、川を渡ったりすることもあるので、大人と一緒に行動し、服装や持ちものなどにも、万全な準備と計画が必要です。



古墳は森の中に「こんもり」盛り上がっている場合もあります。

■史跡 近江国府へ行こう！！

ここで、滋賀県埋蔵文化財センターの近くにある史跡公園として、史跡近江国府跡を紹介します。

近江国府は、昭和38年に発掘調査が行われて、我が国で初めて国庁の中心建物（政庁）が見つかりました。今の県庁にあたる遺跡です。

その後、史跡公園として整備が行われて、建物跡や基壇部分が復元されています。その広さを実感してみてください、



史跡近江国府跡の位置



①復元された木装基壇



②骨組みによる建物の復元

※くわしく知りたい人は係の人に聞いてね



史跡近江国府跡の地図

気をつけよう

史跡公園はみんなが利用する場所です。壊さないよう施設を大切に使いましょう。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会

〒 520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2

TEL 077-548-9780 FAX 077-543-1525

<http://shiga-bunkazai.jp/>